

会議議事録

事業名	平成26年度「職業実践専門課程」の推進を担う教員養成研修モデルの開発・実証
代表校	一般社団法人 全国専門学校教育研究会

会議名	第1回 実施委員会／開発・実証委員会／評価委員会 合同委員会
開催日時	平成26年 9月17日(水) 13:00～15:30(2.5h)
場所	アルカディア市ヶ谷 7F 「妙高」
出席者	<p>①実施委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浦山哲郎、井本浩二、佐竹新市、安藤喬、松井祥高、國分義史、山崎彰、川崎千春、中越晃、片岡均、坪内浩一、山本絵里子、鷺澤文治 (計13名) 【代理出席】芦澤昌彦、栗山重隆、福田稔 (計3名) <p>②開発・実証委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・永井真介、岡村慎一、伊藤慎二郎、飯塚正成 (計4名) <p>③評価委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小野紘昭、齋藤進 (計2名) ※岡村慎一 (②と兼任) <p>④オブザーバー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省生涯学習政策局生涯学習課専修学校教育振興室 専門官/大坂香織、係長/春田鳩麿 (計2名) <p>⑤事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加藤香菜子、飯塚久仁子、下島耕一、花田香央理 (計4名) <p>(参加者合計28名)</p>
議題等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 挨拶及び事業概要・事業内容の説明(浦山会長) 2. 委員自己紹介(各委員) 本日出席の各委員からの自己紹介、及び事務局からの挨拶 3. 職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進事業概要説明(文科省春田様より)

	<p>4. 平成26年度「職業実践専門課程」の推進を担う教員養成研修モデルの開発・実証事業概要説明（永井委員）</p> <ul style="list-style-type: none">・ 成果物について 各分科会、下記3点を作成予定<ul style="list-style-type: none">①マニュアル②教科書③カリキュラム ・ 事業終了後の方針について<ul style="list-style-type: none">①教材および実証講座を収録した動画は、HPにて公開。②教材等は本会を中心として研修を実施し、毎年改善・フォローアップする。③可能な限り複数の場所での本研修プログラムを継続的に実施していくための体制を整備する。④次年度は、本年度開発する教材の基礎的知識を学習するためのe-learningを開発し、広範囲に提供する。⑤次年度は、授業運営に必要な教員コンピテンシーを調査し、さらに必要な派生的な研修モデルを提案する。 ・ 各委員の役割について 事業計画書をもとに説明。 ・ 採択時における事業評価及び採択について 事業費は18,974,630円であり、そのうち1割が事業管理費にあたる。 <p>5. インストラクショナルデザイン分科会概要説明（岡村委員）</p> <ul style="list-style-type: none">・ IDの概要説明・ IDを当研修に採用した理由について 経験のある教員であれば、長年の経験からよい教育を設計して実施しているかもしれないが、それを経験の浅い教員でも設計して実施できるようにするものがIDである (=教員のレベルの底上げ)
--	---

	<ul style="list-style-type: none">・担当委員（ウチダ人材開発センタ）の紹介 ウチダ開発人材センタは、従来の全専研研修にも講師として深く関わりもあり、ID自体も以前より全専研の研修として開催していた。・第1回インストラクショナルデザイン分科会の報告 <p>6. アクティブラーニング分科会概要説明（伊藤委員）</p> <ul style="list-style-type: none">・アクティブラーニングの概要説明 「受動的な学修経験では育成できない」主体的な人材を育成するために、教員が一方向的に知識を教える「講義型」ではなく、学生自らが課題を解決する「能動的学習」がAL。・担当委員（小林委員）についての紹介・第1回アクティブラーニング分科会の報告 <p>7. 質疑応答</p> <ul style="list-style-type: none">・企業との連携の在り方について →文科省の指摘事項にもあった項目であり、それぞれの分科会にて、今後改善のために討議する。・質問会議（アクションラーニング）の概要説明・各委員会の役割が、事業計画書から深く読み取れないとの声もあり、こちらについては再度討議を詰め、改めてご報告することとなった。 <p>8. 今後のスケジュールについて</p> <ul style="list-style-type: none">・浦山会長の可能な日程のなかで、より多くの各委員が出席可能である日程を調整。 →11月12日(水)・次回実証・開発委員会は、岡村委員の出席可能な日程より、各委員出席可能である日程を調整する。 →【候補日】 10月24日(金)、10月23日(木)、10月20日(月)
--	--

以上